

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米市下里 3 - 2 - 2 3
園名	はくさん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

0 歳児、1 歳児 音リズム（音に触れ楽しむ 体を動かす楽しさを知っていく）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
色々な音や音楽に触れる中から、リズム感や運動機能の発達を促し五感を刺激し表現力を豊かにする。
音、音楽の心地よさを感じて音への興味関心を広げていく。
教わった遊びやリズムを全園で共有して楽しさを広げていく。

2. 活動スケジュール

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
8 月～ 2 月にかけてアメリカンリトミックの講師を招き、音を感じたり楽器に触れて楽しんでいく。
8 月 7 日、2 1 日
9 月 4 日、2 5 日
1 0 月 9 日、3 0 日
1 1 月 1 3 日、2 8 日
1 2 月 1 8 日
1 月 1 5 日、2 9 日
2 月 1 3 日、2 6 日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・リトミック講師 ・スピーカー ・リトミックスカーフ ・パタパタマット

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ウクレレに合わせて歩く。音楽をよく聞き体を止める。鉄琴をたたく。耳をつけたり音を感じる。大きなオーガンジーを上下に揺らし楽しむ。先生が出した、たくさんの楽器の中から子ども達が好きな楽器を選んで、音楽に合わせて鳴らす。エッグシェーカーを音楽に合わせて振ったり、床をトントンしたりして音楽に乗る。鈴付きカラフルリボンを持って音楽に乗って揺らしたり踊ったり自由に身体を動かして楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



講師の先生の顔を見ると、楽しいことが始まる！とわかり、見通しを持って期待して参加していた。途中でその場から離れていく子も、お気に入りの音楽やリズム歌あそびが始まると、やりたい気持ちになり自分から輪の中に戻ってきた。リトミックが始まったばかりの頃、音に合わせて歩く―止まる―歩く…をやると、音が止まっても歩き続けたり、あちこち走ったりする姿もあったが、リトミックのたびに繰り返してやってきたことで、3月では「ピタッ！」と自分で言いながら止まっていた。日々の生活の中でも、アメリカンリトミックを通して楽器などを「ば～いばい」と歌いながら片づけることを繰り返してやっているので、子どもたちが「ば～いばい」と歌いながら片付けたり、子ども同士で共感して片付けたりする姿がある。子どもたちの中で歌（リズム）と行動の意味づけができていくことがわかる姿だった。

毎回、最後に必ずたくさんの楽器の中から、子どもたちが自分で選びながら鳴らしてみたり、音楽に合わせてみんなで鳴らしたりして楽しんでいる。0歳児も1歳児も、楽器が入っている袋を見つけるとのぞき込んだり、楽器が出てくるのを期待して待ち、出てくると目当てのものを探したり、大好きな担任に楽器を選んで届けたりする姿がある。繰り返しの中で、期待したり、見通したりして、楽しみにしている子どもの姿がたくさん見られ、子どもたちの中にアメリカンリトミックの音楽や経験が積み重なり、生活の中でも浸透するくらいひたひたと染み込んでいるのを感じる。

オーガンジーをもって
ユラユラ～顔にかけて
いないいないばあっ！



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年間通して、月2回と定期的に取り組んできたアメリカンリトミックは、すくわくでの活動が始まった当初は、見様見真似で何となくやっていた子、泣いたり大人に抱っこされて参加していた子、アメリカンリトミックよりもホールや午睡室を走ったり違う遊びのほうに気がなっていた子、身体は動かさずその場にいる（見ている）という参加の仕方だった子もいた。月2回という短いスパンでリトミックの取り組みができたことで、子どもたちも前回やったことを覚えていたり、繰り返し同じことをやってくれたことで子どもたちの中の“知っている！”が増えていく姿があった。それに伴い、自分からみんなの輪の中に入っていきやすくなり、講師の先生とのやりとりを楽しみながら意欲的に参加していく姿へと変わってきた。

日々の保育の中で講師の先生がやってくださった映像をスクリーンに映して乳児クラスでやってみた。どの子も音楽を聴いて講師の先生とやったことを思い出しながら身体を動かしていた。

どの年齢でも、繰り返していくことで子どもたちに積み重なっていき、見通しを持って期待して、意欲的・積極的に参加していく姿が多く見受けられた取り組みとなった。

来年度も引き続き、講師の先生によるアメリカンリトミックの活動をしていけると、子どもたちにとって、より積み重なり見通しや期待を持って取り組んでいけると思う。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米市下里 3 - 2 - 23
園名	はくさん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

1・2歳児 アメリカンリトミック (音に触れ楽しむ 体を動かす楽しさを知っていく)

<テーマの設定理由>

テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
体操など音や音楽が好きで身体で表現することが楽しそうな子どもたち。
リズム感や運動能力を育て音楽に触れることで心身の発達を促していけるようになる。
教えてもらったリズムを全園で共有しみんなで楽しんでいく。

2. 活動スケジュール

8月～2月にかけてアメリカンリトミックの講師をお呼びして音に触れ身体を動かしていく。
8月7日、21日、9月4日、25日、10月9日、30日、11月13日、28日
12月18日、1月15日、29日、2月13日、26日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・スクリーン ・プレイフルクッション ・ステップアップ ・フラフープ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ウクレレに合わせて「はじまるよ～」の歌をみんなで歌いながら膝や床をたたく。「ジャック イン ザ ボックス」の手あそび。「イエ～イ」のリズムに合わせて飛び出る。ピアノに合わせて、さる、ペンギン、ぞう、カンガルーになって歩く。高音で手を上げキラキラ、低音で雷が出ておへそを隠す。カスタネットを楽しむ。頭やお腹おしりなど好きな所で好きなように音を鳴らす。ゴムの入った輪っかを低くしてとぶ、大きく開いてくぐる。歌に合わせてリズムをとり感じながら体を動かす。講師の先生の出した楽器の中から好きな楽器を選んで、音楽に合わせて鳴らす。「ティヘア」の歌に合わせて手を動かして、歌いながらおしまいにする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

講師の先生とやりとりをしながら、楽しむ様子がたくさんあり、子どもたちが主体的にアメリカンリトミックに参加している。ピアノに合わせて、さる、ペンギン、ぞう、カンガルーになって歩く、というのを毎回やってきた。3月では、動物の名前を出さず、ピアノの音だけで何の動物の音か、聴いて判断して動きを変える。高音で手を上げキラキラ、低音で雷を表現しているからおへそを隠す。鈴付きカラフルリボンを使って音に合わせてリズムをとりながら身体の動きで音の強弱を表現するなど、今までのまとめをしつつ、より発展したリズム

あそびとなった。子どもたちはよく聴いて考えて、意欲的に参加した。



大きな輪のゴムを広げてくぐって、縮めてまたいで・・・大騒ぎしながら楽しんでいました



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが意見や発想を講師の先生に出し合ったり、自分で考えて、使い方を工夫していた。アメリカンリトミックの日だよ、という声かけだけで活動を見通して楽しみにし、期待している姿が毎回たくさんある。

日々の保育の中で講師の先生に来ていただいた取り組みの映像をスクリーンに映して乳児クラスでやってみた。どの子ども音楽を聴いて講師の先生とやったことを思い出しながら身体を動かしていた。

繰り返していくことで子どもたちに積み重なっていき、見通しを持って期待して、意欲的・積極的に参加していく姿が多く見受けられた取り組みとなった。

来年度も引き続き、講師の先生によるアメリカンリトミックの活動をしていけると、子どもたちにとって、より積み重なり見通しや期待を持って取り組んでいけると思う。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米市下里 3 - 2 - 2 3
園名	東久留米市立はくさん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

3 歳児クラス
全身を使ってあそび、自分の身体を知っていく。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
走ったり、投げたりして遊ぶことや、ずぶ濡れで水や泥の感触遊び好きな子どもたち。
近年の猛暑では庭あそび、水遊びも保障してあげられない。室内でも身体を動かし遊ぶことができ、自分自身の身体を調整しながら動かすことを知っていく事が出来るように、室内でも意識的に身体を動かす遊びを設定していく。

2. 活動スケジュール

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
7月～2週に1度程度ホールでの遊びを設定していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・スマートリング ・カラートンネル ・玉あて名人 ・名人シリーズ専用球 ・マジックマット
・カラートンネル ・ソフトラダー ・ステップなわとびポールスタンド ・クライミングシリーズ
・ジャンプ&スプリングマット ・マット整理ワゴン ・ステップラバーリング&ライン
<巧技台>・ふた ・はしご ・大わく 滑り台 ・跳び箱

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1年間通して身体の動かし方や、その時期の子ども達の姿に配慮し、意識して取り入れてきた。後半は、大縄も取り入れ、子ども達のやりたい気持ちを叶えてあげることができた。

夏、猛暑で園庭に出られない時だけでなく、梅雨時期等にも意識的に取り入れてきた。身体の動かし方や楽しみ方の違いも感じた。繰り返し活動することで自信もつき、意欲的に取り組む姿を運動会を通して保護者にも伝えた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日々繰り返す中で、遊具に合わせた体の動かし方が上手になっていった。活動を知らせると「やった～！」と喜び期待する姿があり、「できるよ！」「見ててね！」と出来る自分の姿を大人に認めてほしい子どもの姿もあった。また、「友だちと一緒に」を楽しんだり、梯子の下を海に見立ててサメ役の大人とのやり取りを楽しむ等、運動だけでなく関わりにもひろがりを見せた。活動の準備をする間、最初の頃はやりたい気持ちを抑えきれずに動き出してしまう事があったが、繰り返しの中で「期待して待つ」ことが出来るようになり、思いのままに動きたい自分の気持ちと身体を調整するような姿にも成長を感じる。「あれもやりたい！」等と、遊具を沢山用意出来たことで子どもが選択できる環境にもなった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

トンネルを設定して四つん這いやハイハイでゆっくり進むコーナーを取り入れたり、トランポリンクッションではその場ジャンプやジャンプでの移動、的に向かってボールを投げる。遊びの中で自然と獲得していく身体の動きではありますが、大人側が意識して取り入れることで子ども一人ひとりの“苦手”が見えてきたり、慣れてくると子どもが自分で身体の動かし方を変えたり…そんな発見もあった。

繰り返していく中で、自然と順番を待てるようになり、ジャンプしながら友達と共感したり…。今では、リレーや長縄を楽しむ姿も増えた。まだまだ身体を動かすことに苦手意識のある子もいますが、全身を使ってあそぶことの楽しさを感じられた1年でした。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米市下里 3 - 2 - 2 3
園名	東久留米市立はくさん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

4 歳児 鏡

<テーマの設定理由>

人物や景色が鏡に映る様子や、向きや角度によって映り方が変わる様子を楽しんだり、光の反射など、鏡を使った遊びを楽しむ。

2. 活動スケジュール

- 7月 かがみの絵本の読み聞かせをする
- 9月 1人1つずつの平面の鏡を持ち、鏡で遊んでみる
- 12月 ミラーボックスを製作して遊ぶ
- 2月 万華鏡を作って遊ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

<活動の内容>

- ・鏡
- ・ミラーボックス製作セット
- ・万華鏡製作セット
- ・絵本（ふしぎなにじ・きょうのおやつは・かがみのサーカス）
- ・カメラ1台
- ・SDカード

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・丸い手鏡を 1 個ずつ持って遊び自分の顔や天井、角度を変えて周りの人の顔を見て楽しむ。
- ・歩き回って好きな所に行き鏡で遊ぶ。
- ・ミラーボックス作り・・・ミラーボックスに貼る折り紙の柄を 3 枚選び、貼る場所を決めてのりで貼る。鏡を 2 枚貼り、箱型に組み立てる。・ミラーボックスで遊ぶ・万華鏡を作って遊ぶ

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

・かがみの絵本の読み聞かせ⇒本を開く角度を変えることで見え方が変わり「なんか変わったよ」と保育者に知らせる。

・丸い手鏡を 1 個ずつ持って遊ぶ⇒最初は座って自分の顔や天井、角度を変えて周りの人の顔を見て楽しむ⇒歩き回って好きな所に行き鏡で遊ぶ。



・鏡越しに友だちや大人と目を合わせて笑ったり、「見えた?」「見えてるよ」とやりとりする⇒部屋からテラスへと出て太陽光を床や園庭の地面、壁に反射させて楽しむ⇒光が動く様子を見て「ゲームみたい」と言う。乳児クラス側にいる職員に「まぶしい～」と反応されて、光が「届いてる!」と喜ぶ⇒あまり興味を示さず、すぐに飽きてしまう子もいた⇒大人のエプロンに光を当てて楽しむ子もいた。

・ミラーボックス作り・・・ミラーボックスに貼る折り紙の柄を 3 枚選び、貼る場所を決めてのりで貼る。鏡を 2 枚貼り、箱型に組み立てる⇒ミラーボックスで遊ぶ⇒箱型になると早速穴からのぞいてみる。「なんかすごい」「いっぱいつながっている」「パンダがたくさん見える」(パンダ柄) など、折り紙の柄が鏡に反射して見えるのを楽しむ⇒箱の中に折り紙を貼るために使ったのりを入れて、のりが沢山見えるのを喜ぶ。



・万華鏡を作って遊ぶ⇒万華鏡が何かわからず、望遠鏡かと思っている子がいる⇒穴からのぞいてクルクル回して楽しむ⇒日の光が差す方向の時と室内の暗い方向の時で見え方が違うことに気づく⇒友だちの万華鏡と交換してのぞいた時に「なんか違う」と言って楽しむ⇒以前作ったミラーボックスと万華鏡を組み合わせで遊び「一緒だと面白い」と言う。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

鏡というテーマで活動してきて、絵本を見たり手鏡で遊んだり、ミラーボックス・万華鏡を作って遊ぶ中で物の見え方の変化や光の反射を楽しむ子どもたちだった。自分が発見したことは友だちや大人に知らせたい姿も多く、子ども通しに関わり合う機会にもなっていた。目新しいミラーボックスや万華鏡を教材として使い、視覚で楽しめることだったのもあり、子どもたちが興味を持ちやすかったと思う。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東久留米下里 3 - 2 - 2 3
園名	東久留米市立はくさん保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

5歳児 身近な食べ物の変化を知る

<テーマの設定理由>

『そらまめくん』の絵本を読んだ時、豆が嫌いな子が多かった。子どもたちが好きなきな粉や、豆腐も枝豆からできていることを話すと、驚いていた。豆を育て、豆の成長をともに見守りながら、きな粉や豆腐に変化していく様子を知っていく。

2. 活動スケジュール

5月・子どもたちに計画を話す。
6月・子どもたちとともに土づくりをする。
・子どもたちと苗を買いに行く。
7月・枝豆を収穫する。→一部を収穫し、残りは大豆にする
8月・枝豆を乾燥させる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・枝豆の苗・土 ・肥料 ・プランター
・カメラ
・ブレンダー
・はかり
・温度計
・鍋

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・職員が事前に育てていた枝豆(発芽したもの)をみせる。一人一人に土の入ったカップを渡し枝豆の種を植える。→プランターを4個用意して枝豆のタネを植える。→カップに植えた枝豆の種が発芽し畑に植え替える。

・枝豆の実がつき、枝豆を収穫、一人一人枝豆を抜きサヤをとる。午後のおやつに出してもらいみんなで食べる。残った枝豆は乾燥させ大豆にする。「だいずの変身」という表を作りみんなでみる。大豆が何に変わるか絵を見てみんなで確認する。大豆を一部収穫し、絵本『手のり忍者』の内容になぞって収穫した大豆を入れて忍者だんごを作る。→残り的大豆を収穫する。

→きな粉に加工して(調理活動)、マカロニにかけて食す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



大豆から発芽した。底から見える根にびっくりしていた。



枝豆収穫



子どもたちに写真やイラストを使って概要を話す



乾燥させて大豆にする



乾燥大豆を水に浸しふやかす

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

硬い大豆から発芽したことに驚き、想像以上に枝豆を収穫でき子どもたちも喜んで食べていた。乾燥大豆から発芽し、枝豆へ。枝豆から乾燥大豆、乾燥大豆からきな粉に加工の過程を観察でき、普段何気なく食している枝豆や、きな粉がどう成り立っているのか実際目で見て味わう体験ができたことも良かった。

最後、きな粉がうまいかなかったことは残念だったのと、もうひとつくらい加工品ができたら良かったが、全体的には良い取り組みだったと感じている。